

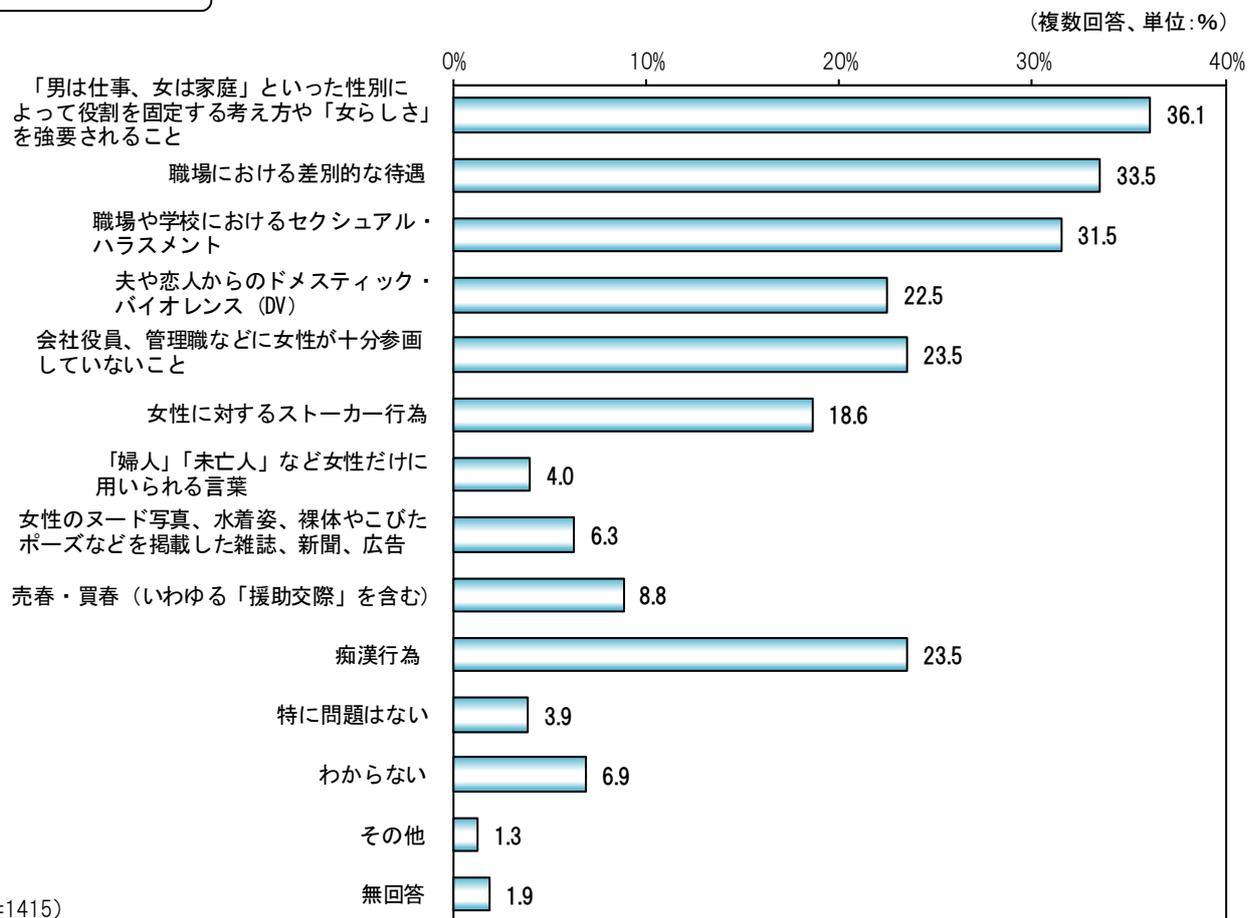
## 5. 女性の人権について

### 問14 女性に関する人権上の問題点

あなたは、女性の人権問題について、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。  
次の中から選んでください。(〇は3つまで)

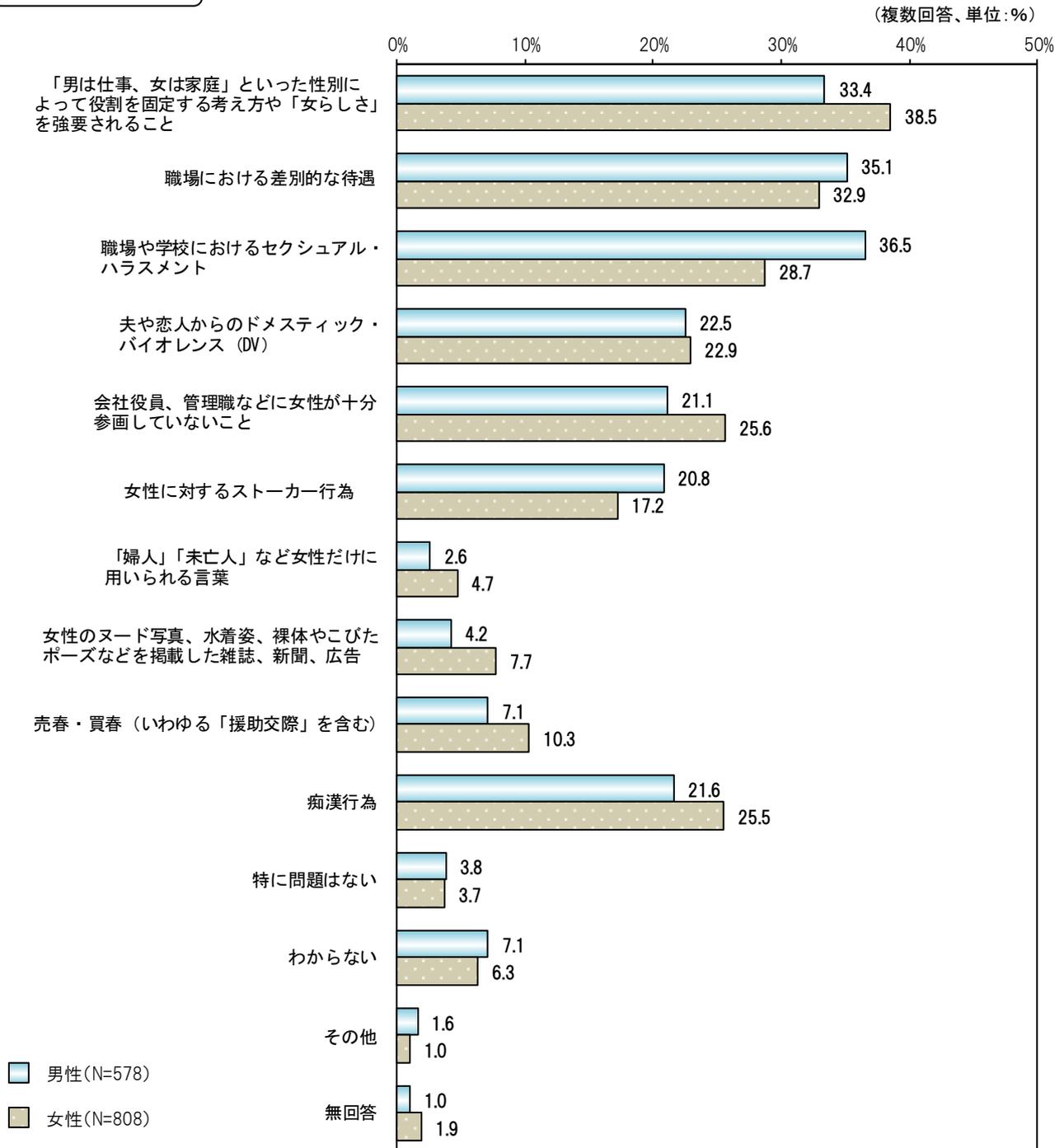
1. 「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること
2. 職場における差別的な待遇
3. 職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント
4. 夫や恋人からのドメスティック・バイオレンス (DV)
5. 会社役員、管理職などに女性が十分参画していないこと
6. 女性に対するストーカー行為
7. 「婦人」「未亡人」など女性だけに用いられる言葉
8. 女性のヌード写真、水着姿、裸体やこびたポーズなどを掲載した雑誌、新聞、広告
9. 売春・買春 (いわゆる「援助交際」を含む)
10. 痴漢行為
11. 特に問題はない
12. わからない
13. その他 ( )

#### 全体集計



「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」の割合が36.1%と最も高く、次いで「職場における差別的な待遇」が33.5%、「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」が31.5%となっている。

## 性別集計



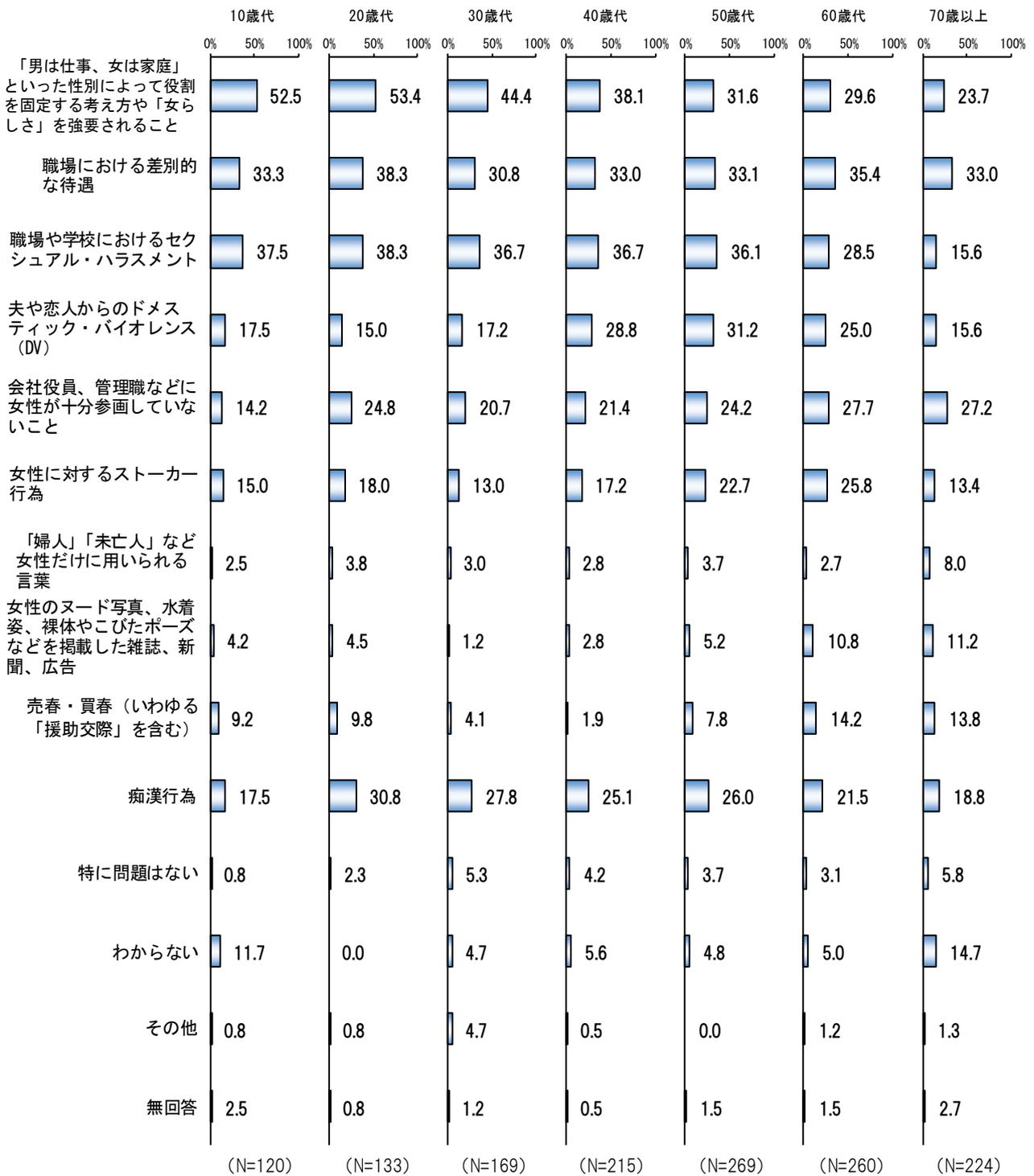
性別で見ると、男性は「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」の割合が最も高く、次いで「職場における差別的な待遇」、「「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」の順となっている。

女性は「「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」の割合が最も高く、次いで「職場における差別的な待遇」、「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」の順となっている。

「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」が最も男女差が大きく、女性(28.7%)よりも男性(36.5%)の方が7.8ポイント高くなっている。

# 年齢別集計

(複数回答、単位：%)



年齢別でみると、10～40歳代は「「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」、50歳代は「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」、60歳代以上は「職場における差別的な待遇」の割合が最も高くなっている。

## 過去の調査との比較

### 割合が高い順に比較

	前回（平成25年度）		今回（令和元年度）	
1	職場における差別的な待遇	34.9%	「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること	36.1%
2	男女の固定的な役割分担	30.4%	職場における差別的な待遇	33.5%
3	職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント	27.6%	職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント	31.5%
4	夫や恋人からのドメスティック・バイオレンス（DV）	24.9%	会社役員、管理職などに女性が十分参画していないこと	23.5%
5	女性に対するストーカー行為	23.2%	痴漢行為	23.5%
6	議員や会社員役員、管理職などに女性が十分参画していないこと	22.6%	夫や恋人からのドメスティック・バイオレンス（DV）	22.5%
7	痴漢行為	19.7%	女性に対するストーカー行為	18.6%
8	売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む）	10.9%	売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む）	8.8%
9	わからない	10.4%	わからない	6.9%
10	特に問題はない	5.6%	女性のヌード写真、水着姿、裸体やこびたポーズなどを掲載した雑誌、新聞、広告	6.3%
11	女性のヌード写真、水着姿、裸体やこびたポーズなどを掲載した雑誌、新聞、広告	5.5%	「婦人」「未亡人」など女性だけに用いられる言葉	4.0%
12	「婦人」「未亡人」など女性だけに用いられる言葉	4.6%	特に問題はない	3.9%
13	無回答	1.5%	無回答	1.9%
14	その他	1.2%	その他	1.3%

前回の調査では「職場における差別的な待遇」の割合が最も高かったのに対して、今回は「「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」が最も高く、「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」や「会社役員、管理職などに女性が十分参画していないこと」が上位に位置している。

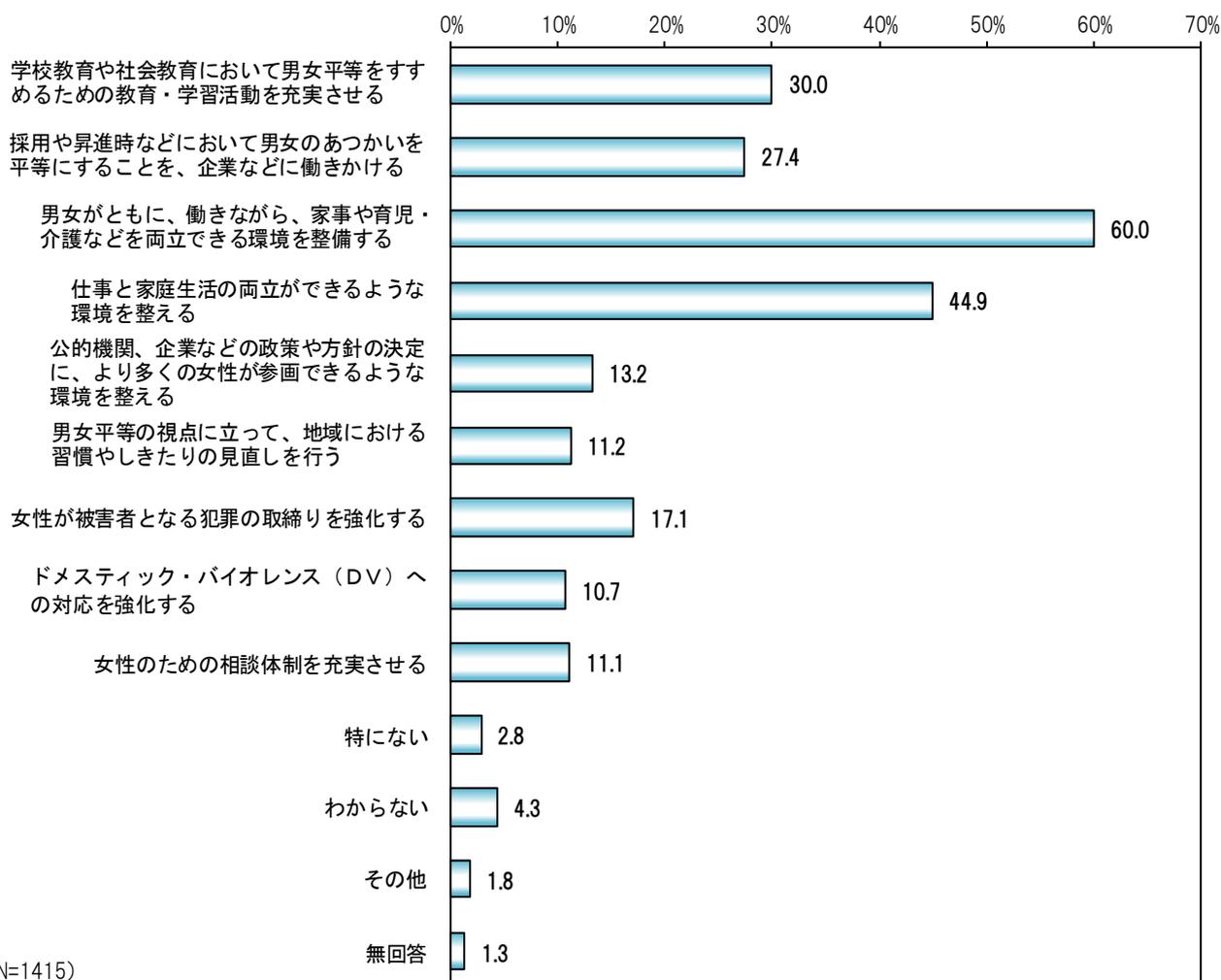
## 問15 女性の人権を守るために必要なこと

あなたは、女性の人権が守られるために、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。  
次の中から選んでください。(〇は3つまで)

1. 学校教育や社会教育において男女平等をすすめるための教育・学習活動を充実させる
2. 採用や昇進時などにおいて男女のあつかいを平等にすることを、企業などに働きかける
3. 男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する
4. 仕事と家庭生活の両立ができるような環境を整える
5. 公的機関、企業などの政策や方針の決定に、より多くの女性が参画できるような環境を整える
6. 男女平等の視点に立って、地域における習慣やしきたりの見直しを行う
7. 女性が被害者となる犯罪の取締りを強化する
8. ドメスティック・バイオレンス（DV）への対応を強化する
9. 女性のための相談体制を充実させる
10. 特にない
11. わからない
12. その他（ ）

### 全体集計

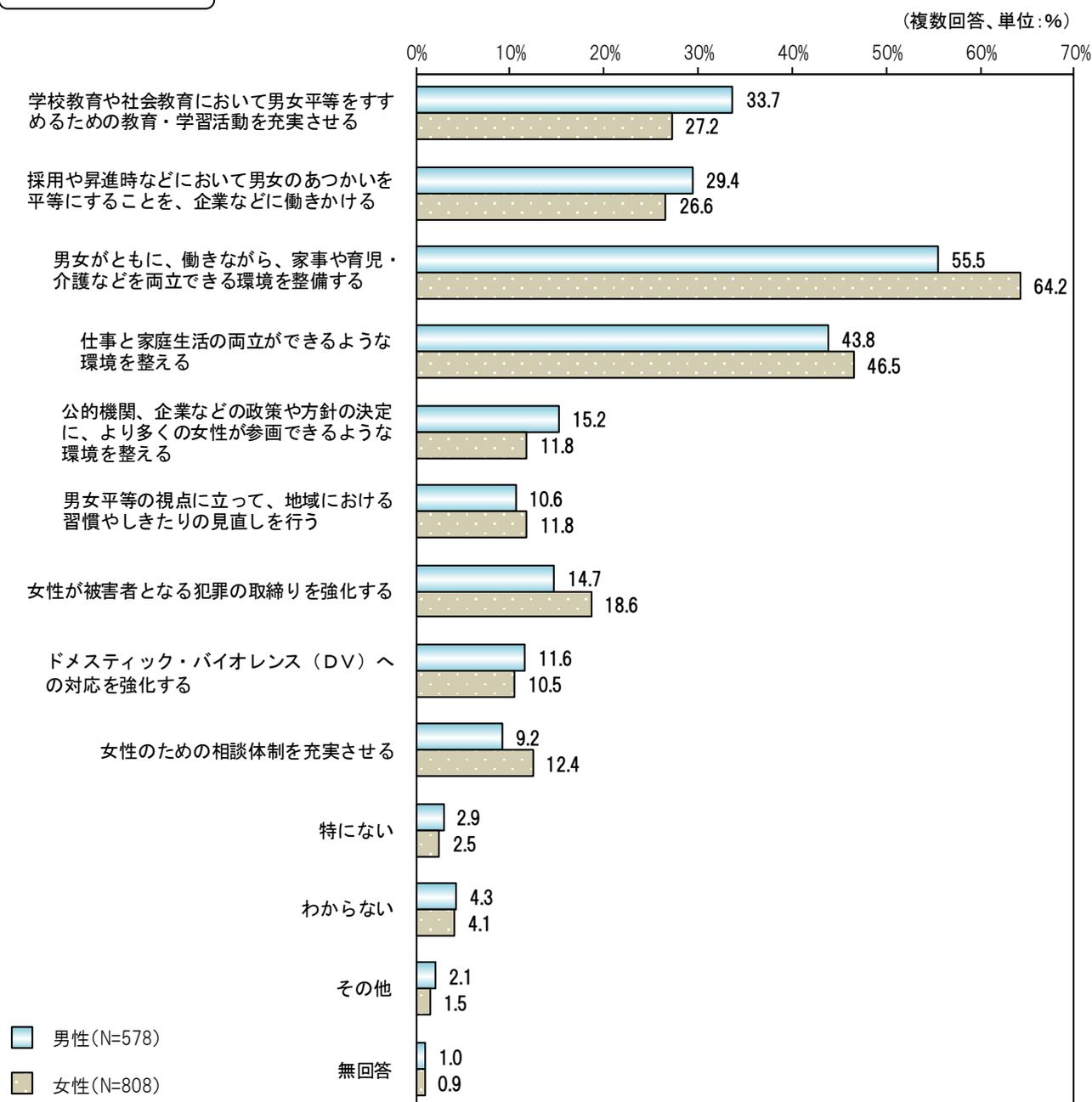
(複数回答、単位：%)



(N=1415)

「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」の割合が60.0%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活の両立ができるような環境を整える」が44.9%、「学校教育や社会教育において男女平等をすすめるための教育・学習活動を充実させる」が30.0%となっている。

## 性別集計

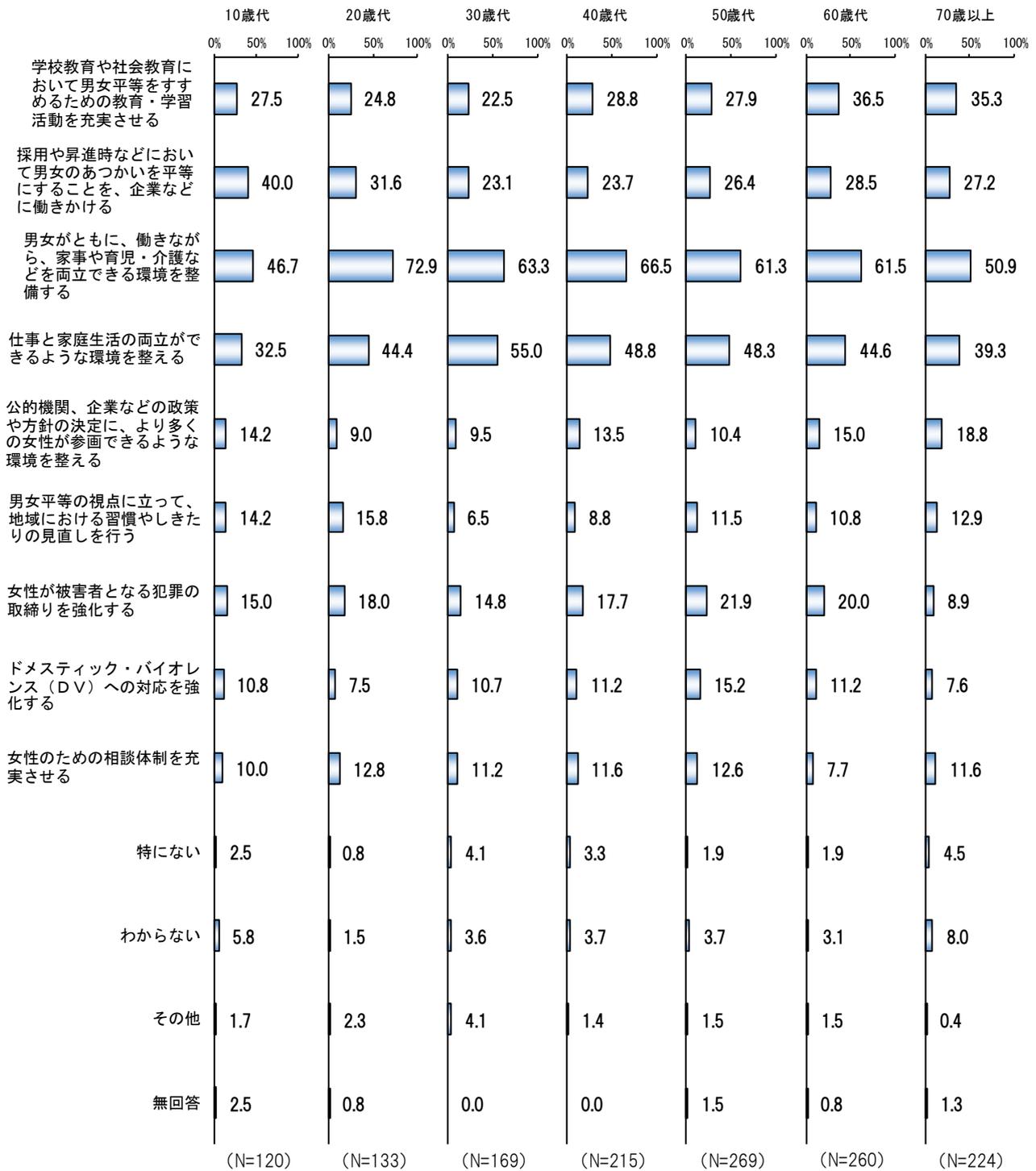


性別でみると、男女ともに「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」の割合が最も高く、次いで「仕事と家庭生活の両立ができるような環境を整える」、「学校教育や社会教育において男女平等をすすめるための教育・学習活動を充実させる」の順となっている。

「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が最も男女差が大きく、男性（55.5%）よりも女性（64.2%）の方が8.7ポイント高くなっている。

# 年齢別集計

(複数回答、単位：%)



年齢別でみると、すべての年齢層で「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」の割合が最も高くなっている。